牛出城跡遺跡

発掘調査報告書

－1998.3－

中野市教育委員会

目次

1　はじめに……1
2　現況と調査区……1
3　牛出城跡……6
4　作業日誌(作業経過)……6
5　調査の結果……6

図版目次

第1図　遺跡の位置(1)……1
第2図　遺跡の位置(2)……2
第3図　立地地形と位置……3
第4図　調査区……4
第5図　第1次発掘遺構配置図……5
第6図　グリット配置図と調査部分……5
第7図　基本層序……7
第8図　遺物……8
第9図　第1号竪穴住居……9
第10図　周溝の部分……9
第11図　遺構……10

1　はじめに

本調査埋蔵文化財報告書は長野県県営畑地総合整備事業における農道改良工事に伴う牛出城跡遺跡の発掘調査報告書である。調査は長野県北信地方事務所から受託した中野市教育委員会が実施した。

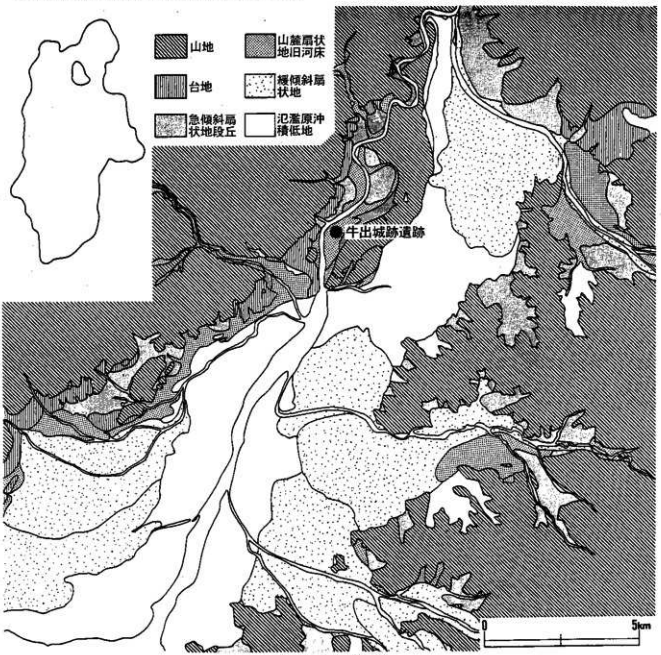
発掘調査は平成９年７月７日から７月25日まで、報告書作成は７月26日から３月30日まで行った。

2　現況と調査区

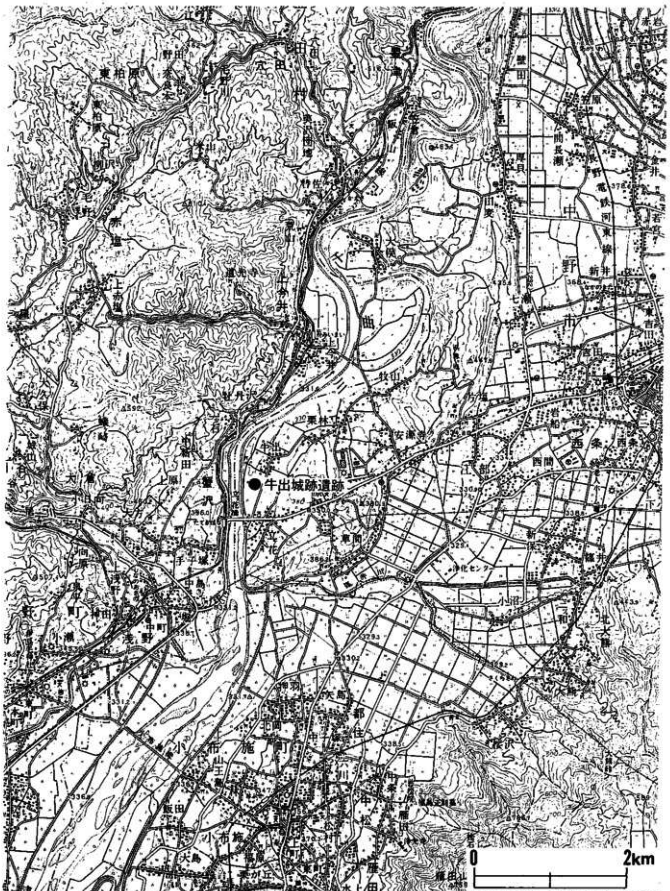
牛出城跡遺跡は中野市牛出地籍に所在し、古くから城跡であるとされてきた。現況では西側と北側の土塁が現存し、北側には堀と考えられる溝が現存するが、西側には認められない。東側及び南側は土塁が認められない。

しかし、平成６年度の発掘調査によって、土塁は確認されなかったが、東側を画する堀が確認されている。また、今回の調査において調査区の一番北に一部確認された溝が南側を画する堀であると考えられる。

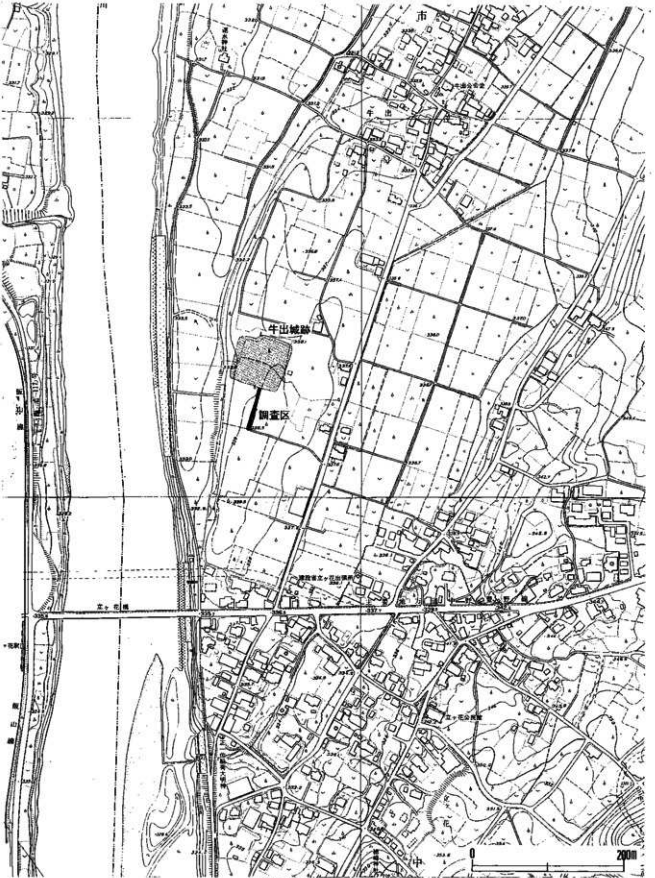
したがって、現存状況や発掘調査の成果を考えあ



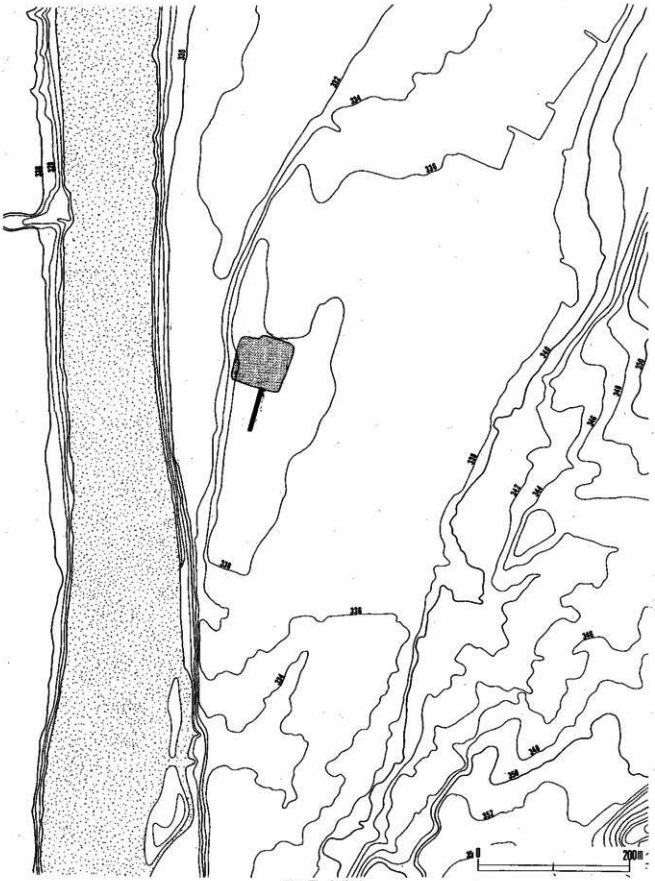
第１図　遺跡の位置(1)



第２図　遺跡の位置(2)

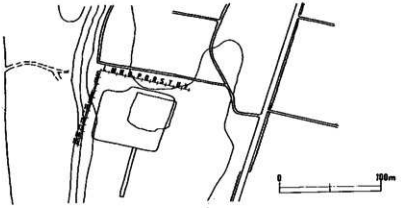


第3図　立地地形と位置



第4図　調査区

第5図　1995年（第1次）発掘遺構配置図



第6図　グリット配置図と調査部分

わせると、北側土塁には屈曲する部分があるが、約７０×７０ｍの方形に土塁や堀が巡り、いわゆる方形館であると考えられ、今回の調査区は方形館の南側堀の外側にあたる。

3　牛出城跡

牛出城跡は千曲川の河岸段丘面上の段丘崖に並行する微高地の上にある。西側土塁は段丘崖の位置とほぼ一致し、段丘崖を利用したものと思われる。

先述したように牛出城跡は平成６年度に土塁内部約四分の一の面積（北東部分）が発掘調査され、東側の堀を確認したほか、井戸跡（２）、多数の柱穴、溝、土坑などを検出している。

多数の柱穴を検出し、複数の掘立柱建物が存在したことは明らかであるが、明確に建物跡として復元できない状況にある。

遺物としては中世土師質土器、珠洲焼の破片、石臼の破損品、銭（３）を検出したに留まる。中世土師質土器は高梨氏屋形跡分類Ｅ類に相当し、１５世紀代に編年されると考えている。

なお、北側土塁の内側に沿うように検出された幅約２．５ｍ、深さ約７５㎝の溝は現存する堀や土塁が構築される以前の段階の区画とも考えられ、土塁を伴わない溝だけの区画の段階があったことも予想される。

4　作業日誌（作業経過）

作業日程・10日

７月７日（月）　機材搬入。検出始める。

７月８日（火）　雨、作業中止。

７月９日（水）　雨、作業中止。

７月10日（木）　雨、作業中止。

７月11日（金）　柱穴、第１、２、４～６号土坑を検出。ＢＭを設置。表土を除去した調査区（63ｍ×3.3ｍ）のほぼ中央に４ｍ毎のグリット釘打ちを行い、１－Ａ・Ｂ～17－Ａ・Ｂグリットを設置した。

７月14日（月）　第１、２、４～６の号土坑を半堀。第４～６号土坑のセクション実測、写真撮影。柱穴半堀、セクション実測後、全堀。

７月15日（火）　第３、７、８号土坑を半堀。第４～６号土坑の全堀、平面実測、写真撮影。第１号竪穴住居　検出、写真撮影。柱穴半堀と完堀。

７月16日（水）　第１、２、７、８号土坑のセクション実測、写真撮影。第１号溝検出。第２号土坑から鉄製品（正体不明）出土、写真撮影。第１号竪穴住居全堀、セクション実測、写真撮影。

７月17日（木）　雨、作業中止。

７月18日（金）　第１～３、７、８号土坑全堀、平面実測、写真撮影。第１号溝（居館跡の外周溝と思われる）セクション平面実測。10ｍ間隔で２ｍのトレンチを決める。南側のトレンチを20㎝程掘り下げる。エンドスクレイパー出土。

７月22日（月）　トレンチ堀。

７月23日（火）　トレンチ堀。二点目のブレイド出土。

７月24日（水）　トレンチ堀。三点目のブレイド出土。

７月25日（木）　機材の撤収。

７月26日～３月20日まで整理作業

5　調査の結果

今回の調査では旧石器時代の遺物、竪穴住居（１）、土坑（８）が検出されている。

Ａ　基本層序

第７図にグリットＢ－15西壁の土層図を示した。図中に土層名を記したが、以下に補足説明する。

Ⅰ層　耕作土

Ⅱ層　黒色土　砂質性で軟質強。砂山を掘っているようである。北に行くほど黒土層が厚くなっている。

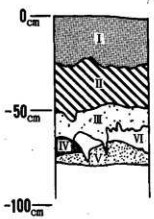
Ⅲ層　灰褐色土　砂質強で軟質強。

Ⅳ層　黄褐色粘土　砂質強。

Ⅴ層　黄色土　粘土質で硬質強。非常に固くしまった粘土で両刃のはがたたないほどであった。

遺物包含層。

Ⅵ層　灰褐色土　Ⅲ層より薄い。白色が強い。



第７図　基本層序

B　旧石器時代

スクレイパー（3）、磨石（1）、フレイク（4）が検出されている。

（1）エンドスクレイパー（第８図1）

基部と先端部の二つに破損して出土した。先端部は刃部を上にして、Ⅳ層に突刺さるように、基部は約２０cm北側でⅣ層直上に主要剥離面を下に、基部を東に向け、ほぼ水平に横たわっていた。

頁岩製の石刃を素材とする。基部付近は大きく二次加工され、石刃の原形は知り得ないが、現況では長さ１２．２cm、最大幅４．６cm、厚さ１cmを計測し、断面形態は「し」の字状に内湾する薄手の中型石刃出ある。

基部は尖頭状を呈するが、僅かに石刃剥離打面を残す。また、先端部分には未調整の素材面が幅約１cmほど残っている。

基部が狭くやや尖頭状をなすエンドスクレイパーである。刃部は主要剥離面側から左側縁にかたよる石刃の稜に向かって、急角度で並列する剥離によって作り出されている。先述したように先端部の中央左側付近未調整の素材面が残されている。

刃部の平面形はほぼ左右対称の円弧をなし、石器の軸線に対して弧の中心線はわずかに左に傾いている。刃部の厚さは薄い。

両側縁の全周に調整加工がなされ、基部がほぼ尖頭状をなしている。左側縁の調整加工の剥離角は小さく、右側縁は大きい。これは石刃の稜が左にかたより、右側縁が薄いことによるのであろう。断面を観察すると両側の縁がなす角度はほぼ等しくなるように加工されている。

（2）サイドスクレイパー（第８図2）

頁岩製の石刃を素材としている。先端部分が欠損したのか故意に切断されたか明確に判断できず、明確に器種を断定できない。左側縁が内湾するように見えることからサイドスクレイパーに分類した。

剥離痕は左右両側縁に認められる。右側縁は剥離角の大きい並列した剥離痕、左側縁は剥離角も大きさも小さい不規則な剥離痕が認められる。右側縁の剥離痕は調整加工ではなく、使用の際に生じたものとされよう。

素材剥片の打面をわずかに残すが、小さな調整剥片が認められ、背面からのものも認められる。

（3）サイドスクレイパー（第８図3）

検出時に一部を欠損してしまった。エンドスクレイパー（1）より南東方向に約７０cm離れた地点のⅣ層直上から出土した。

素材剥片は石刃であるが、基部と先端部分が欠損する。石器の素材とするために切断されたものか、石器に加工された後に折れたものかは判然としない。

平面形態は短冊形で、長さ約５．２cm、幅２．４cm、厚さ０．８cmである。

左側縁に剥離角の大きい調整剥離が腹面側から行われている。右側縁は一部欠損しているが二次剥離痕は認められない。

（4）磨石（第8図5）

偏平な不整円形（5×7㎝）の川原石状である。顕著な磨痕やこう打痕は認められない。石器であるとはにわかに断定できない。

（5）フレイク（第8図4、6～8）

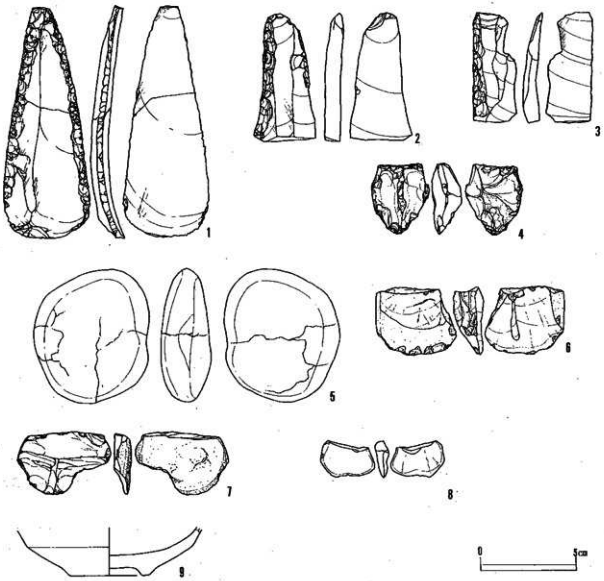
4は玉髄製で、表面が白く変色している。8は頁岩製の横広剥片、6はチャート製の横広な剥片で剥片先端部分に不規則な小剥離痕が認められる。7は粘板製の横広剥片である。これらの剥片は1から3の石器に伴うものではないと思われる。場合によっては縄文時代のものである可能性もあろう。

C　中世

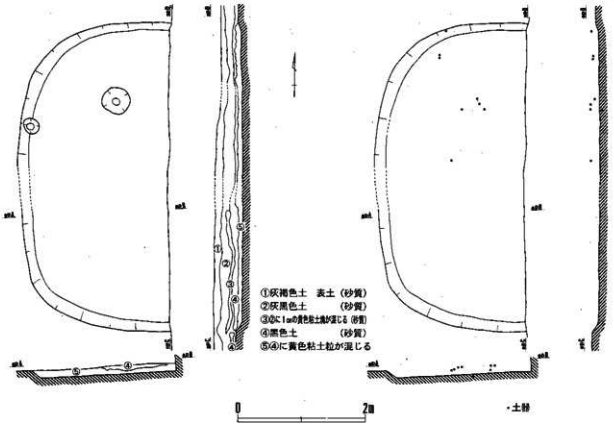
第1号竪穴住居（第9図）

4・5－A・Bグリットで検出された。調査区外に遺構が広がっているため全形を検出していないが、一辺約4mほどの不整方形を呈するものと考えられる。壁の立上がりは緩やかで、壁高は約20㎝である。北側に柱穴が検出された。

遺物は小さな土器片が8点ほど覆土中から発掘されたにすぎず、時代特定が困難である。土器片は古墳時代前期の土師器と思われるものと国産の陶器片（1片）がある。陶器片の詳しい時期断定はできないが、中世以降のものと思われる。



第8図　遺物



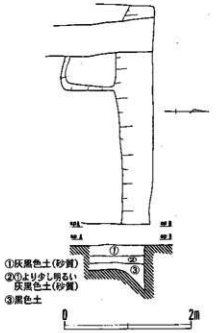
第９図　第１号竪穴住居

第１号溝（第10図）

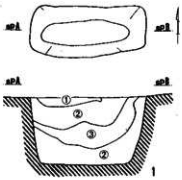
調査区の北側端に検出したが、一部であり全形を知り得ない。おそらく、方形館を巡る南側の堀の肩部分であろう。

土坑（第１１図）

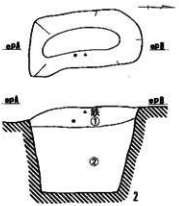
土坑は細長い方形のプランをもち深いもの（１号から３号）と不整形な円形プランをもち深さも比較的浅いもの（４号から８号）の二つの形態に大きく分類される。第２号土坑からは鉄製品が出土したが、他の土坑からほとんど遺物が検出されず、明確な時期特定が困難であるが、中世の所産であろう。



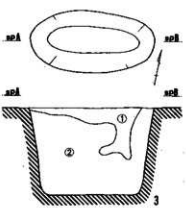
第10図　周溝の一部分



①灰黒色土に黄色粘土塊(1～3cm)が混る
②黄粘土に黄色土が少し混る
③①より黄粘土塊が多め

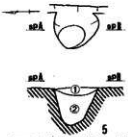


①灰黒色土に黄色粘土塊(1cm)が少し混る
②黄色粘土に灰黒色土が混る

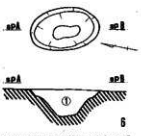


①灰黒褐色土に黄色粘土塊(1～3cm)が少し混る。砂質
②①より黄色粘土塊(1～15cm)が多めに混る。砂質

①灰黒色土に炭が少し混る。砂質
②①に黄色粘土塊(1～3cm)が少なめに混る。砂質

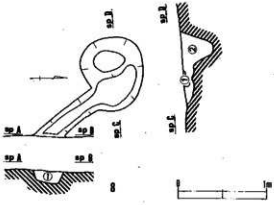


①灰黒色土に黄色粘土塊(0.5～3cm)が混る
②灰黒色土に黄色粘土塊(1cm)が混る



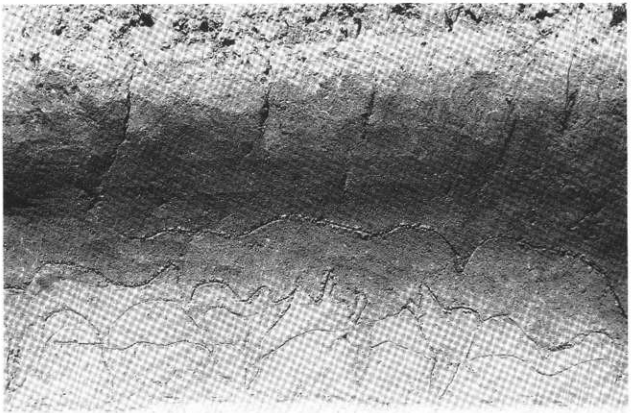
①灰黒色土、粘が少し混る。黄褐色粘土塊(1～3cm)もかなり混る。砂質

①黄色粘土層に灰黒色土を少し含む。砂質。
②灰黒色土に黄色粘土塊(1～3cm)が混る、炭も含む。砂質
③黄色粘土に灰黒色土が①より少なめに混る。砂質

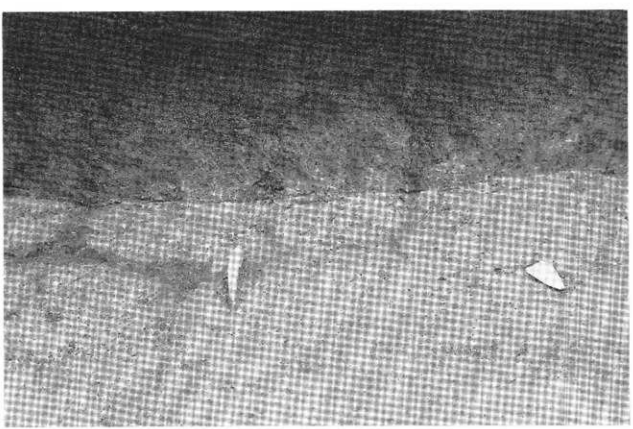


①灰黒色土
②①より黒がうすい。(明るい)

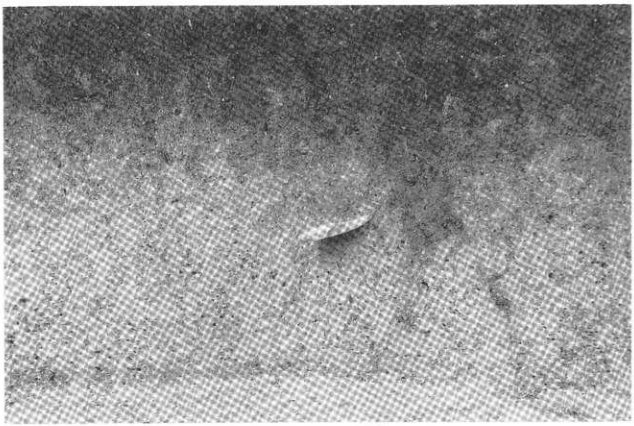
第11図　遺構



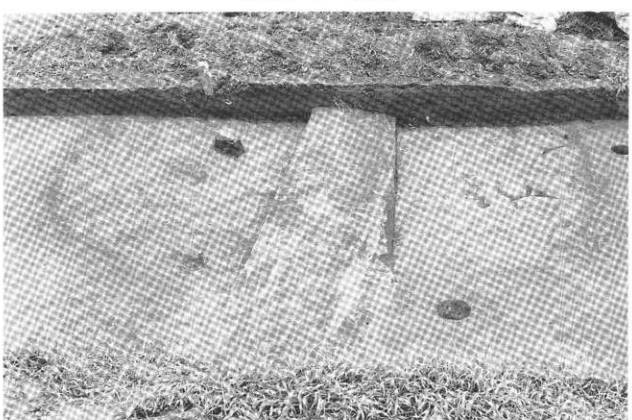
土　　層



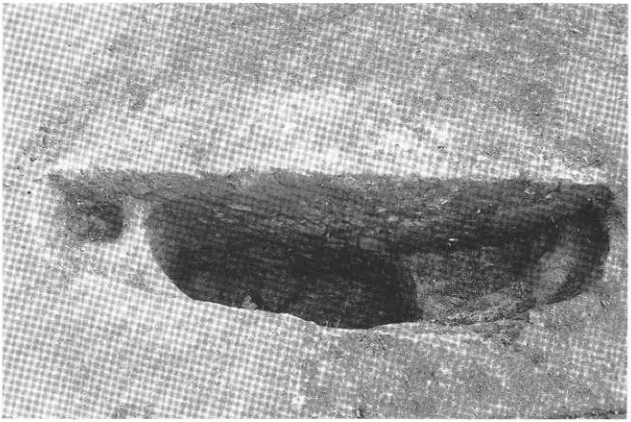
エンドスクレイパー　出土状況



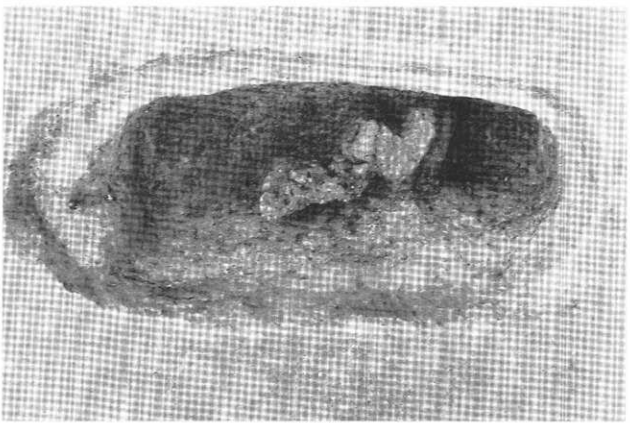
サイドスクレイパー　出土状況



第１号竪穴住居



鉄器出土状況



鉄器出土状況

牛出城跡遺跡発掘調査報告書

印　　刷　平成10年３月20日
発 行 日　平成10年３月20日
編集・発行　中野市教育委員会
長野県中野市三好町１－３－19